

町田市・多摩市と連携して

「誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化」の実現に向けて！

菅政権が誕生し、今秋のデジタル庁設置をはじめ我が国のデジタル政策は大きく加速しました。他方で、地元をまわると、デジタル化により社会から孤立してしまうのではないかという不安の声もたくさん耳にします。

こうした中、我が国のデジタル化に向けた基本方針では「誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化」を謳っていますが、これを絵に描いた餅に終わらせてはなりません。携帯を使えない人が使いこなせるようきめ細かくサポートする、あるいは携帯を持っていない人の行政手続き等を代行するための支援員の存在が不可欠になります。こうした担い手として、地域のICT企業、社会福祉協議会、シルバー人材センター等が想定されますが、全国の身近な場所に存在する携帯ショップが期待されています。政府はすでに「デジタル活用支援事業」を用意し、今年度だけでも携帯ショップ等1,800箇所計9万回のワークショップを開催します。

私達は加藤官房長官にも参加していただいていた少人数の勉強会を開催し、デジタルデバインド対策(*)の議論を続けてきました。来年度以降は上記の「デジタル活用支援事業」の開催頻度や予算を増やし、更にはワークショップ形式に加えて常設型の支援も設けることなどによって、デジタル大

(*)デジタルデバインド…インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。

国デンマークのITカフェに近い形の手厚い支援になるよう政府と調整しています。

地元町田市・多摩市でもデジタルデバインド対策をきめ細かく実現すべく、総務省、町田市・多摩市の担当者、町田市・多摩市議会議員、携帯ショップ等をオンラインで繋ぎ、意見交換会を開催しました。この意見交換会を通して、町田市・多摩市がこの事業に意欲的に取り組んでいくことになりました。この事業は国の全額負担なので、自治体の持ち出しはありません。国と地元自治体との情報格差を解消していくことで地元で事業を実現していくのも国会議員の重要な任務だと感じています。



自民党町田支部の都議会議員・町田市議団

私達も、小倉まさのぶさんと共に、東京都、町田市のためにがんばります。



東京都議会議員
星だいすけ

吉原修都議会議員(5期)の勇退に伴い、先の都議会議員選挙で初当選させて頂きました。



熊沢 あやり



いわせ 和子



おさむら 敏明



佐藤 伸一郎



藤田 学



若林 あきよし



三遊亭 らん丈



渡辺 げんたろう



石川 よしただ



木目田 ひでお

各地区(南・堺・忠生・鶴川)の小倉まさのぶ通信も配布しています。ご覧になりたい方はご連絡ください。HPからダウンロードも可能です。

衆議院議員
小倉まさのぶ事務所

@masanobu_ogura ogura.masanobu

町田事務所: 〒194-0013 東京都町田市原町田5-4-7 からかあさ101号 TEL: 042-710-1192
多摩事務所: 〒206-0041 東京都多摩市愛宕4-9-22 池田ビル103号 TEL: 042-400-1751
[E-mail]info.oguramasanobu@gmail.com [HP]http://www.ogura-m.jp/

衆議院議員 町田市・多摩市選出 (自民党東京都第23選挙区)

真摯に、ひたむきに。



小倉まさのぶ通信

2021年 vol.3 | 町田 | 町田 地区版 |



国会議員はどのように地元の要望を実現すべきか ～8年半の議員活動で考えてきたこと～

地元活動をしており「国会議員は国民の代表者なのだから、国のために仕事をして欲しい」との声がある一方で「町田市・多摩市の国会議員なのだから、地元に残して欲しい」との声も聞きます。一見相反する意見のようにみえますが、私は双方の意見は矛盾するものではないと思います。町田市や多摩市などの地方自治体は、地域に身近な窓口として自治体の業務だけでなく国の業務も担っています。地方分権が進み自治体の責任の下で行う業務が増えてきたとはいえ、自治体は今も四割程度の税収で六割もの仕事をこなしています。ギャップの二割は地方交付税や各種補助金という形で国から自治体に財源移転されます。この割り振りを国が行いますが、今はそれぞれの地域の財政需要が国の財源を遥かに上回っていますので、真に必要な支援が国から全ての地域に行き届いているとは言えません。そのギャップを埋めるのが国会議員の役割のひとつだと思います。

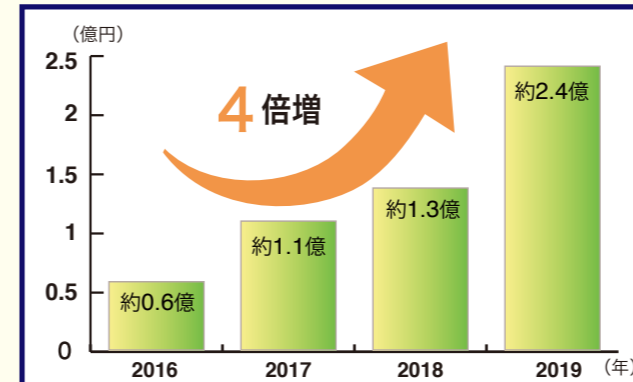
衆議院議員は(比例復活の議員を除き)289の小選挙区にそれぞれ一人ですから、その議員が地域の事情を国に伝えなければ、国はその地域の特殊事情に目を向けることは殆どありません。私が国会議員になって初めて地元の市長との予算要望活動を行うようになりました。例えば、町田市は多摩川の流域に面していないので市単独の下水処理場を水系毎に二つも抱えています。大変珍しいことではありますが、その分、他市と比較して財政負担が重くのし掛かっています。このような事情

を数年にわたって総務大臣に説明をした結果、特別交付税という市が自由に使える交付金が従来より4倍の年間約2.4億円となりました。

また、地元に必要なものは国からの予算だけではありません。地方自治体の責任が拡大するにつれ、医療や教育などの国の政策が必ずしも自治体の現場で実践されない課題も出てきました。例えば、国は教育のデジタル化を推進しています。平成30年度より国は児童生徒3人あたり1台の教育用タブレット・コンピュータを用意できるだけの財政支援を行っていましたが、この支援は地方交付税という紐付きの補助金ではなく自治体の判断で自由に使える交付金のため、多くの自治体では他の事業に交付金が使われてしまい、結果として教育用コンピュータの整備が遅れてしまいました(令和元年度補正予算により別枠で一人一台端末の予算が確保されたので、これにより大幅に整備が進むことになりました)。したがって、国の政策を地元の都議会議員や市議会議員と共有し(他方で都や市の事情を国の政策に反映させることもあります)、国と自治体で整合性のとれた政策にしていくことも国会議員の使命であるとも思い行動してきました。

国会議員、都議会議員、市議会議員が役割分担したうえで町田市・多摩市の発展のためにシームレスに連携することが重要と考えて行動していきます。

【町田市町田地区との要望活動と成果は中面に記載】



国から町田市への交付金額 大幅増額を実現！

特別交付税は、災害や特別な地域事情により地方自治体が資金不足にならないよう臨時的財源として国から交付されます。複雑な算定式を経て決まる交付税総額の6%と定められており、全ての地方自治体が一定の水準を維持できるよう総務省も算出していますが、それぞれの地域実情を全て把握しているわけではないので、その地域の事情と交付額が乖離しているケースも散見されます。

Profile

衆議院議員 小倉まさのぶ 町田市・多摩市選出 (自民党東京都第23選挙区)

1981年	5月30日	多摩市生まれ、町田市在住	2014年	12月	第47回総選挙にて2期目当選
2000年	3月	栄光学園高等学校 卒業	2017年	8月	総務大臣政務官 就任
2004年	3月	東京大学法学部 卒業		10月	第48回総選挙にて3期目当選
		4月		11月	総務大臣政務官 再任
2009年	7月	オックスフォード大学大学院 修了	2019年	7月	桜美林大学客員教授 就任
2012年	12月	第46回総選挙にて初当選			

目指せチャンネル登録1000人!
小倉まさのぶチャンネル

YouTube



町田市 / 町田地区 小倉まさのぶ8年半の活動成果



【地元で事務所をかまえて】

10年前に日本銀行を退職し、世襲で無く、政治経験も無かった無名の新人だった小倉まさのぶの挑戦は、原町田5丁目に事務所を構えたところから始まりました。この間の地域の皆様の厚遇は終生忘れません。これからも、初心を忘れず、真摯にひたむきに政治活動に取り組んでまいります。



中心市街地の活性化「魅力あるウォーカブルシティ」

町田駅は1日に約40万人の乗降客が利用するわが国有数の交通ターミナルです。大型商業施設や商店街があり、街に賑わいや交流を創出してきました。しかし、昨今は近隣都市での大型商業施設の開発や駅前整備により、都市間競争が激化しています。

最近のまちづくりの動きとして、そぞろ歩きしたくなる快適な空間に整備することで都市の魅力を高めていく「ウォーカブルシティ」構想があります。町田市も、潜在的な魅力を活かし、商店街は散策の人で賑わい、多様なイベントが地域の交流を生みだす、そんな活気溢れるまちづくりを目指しています。小倉まさのぶも自民党の住宅土地・都市政策調査会の幹事を務め、こうした自治体の取り組みと国との連携を後押ししています。

町田市中心市街地の活性化における課題として、駅前の慢性的な渋滞解消とバスターミナルの整備、神奈川県境に面する南口の再開発、40万人都市に相応しい1,000席を超える文化芸術ホールの新設などが指摘されています。様々なハードルはありますが、いずれも町田市の発展のためには避けて通れません。自治体、商工業者や、地域の皆様と連携して、しっかりと前に進めてまいります。



キッズダンスバトル2019大会。
小倉もキッズダンス大会実行委員長として地域貢献させて頂きました。

都市公園の充実

町田駅前から少し足を延ばすと、緑豊かな芹ヶ谷公園が広がります。ショッピングと散策が同時に駅近くで出来るのも町田市の中心市街地の魅力の一つです。

小倉まさのぶは当選来、石阪丈一市長と連携し、公園等の整備に係る予算を毎年国土交通省へ要望しています。実際に芹ヶ谷公園については、これまで約1.9億円の都市公園等事業の予算を確保してきました。石阪丈一市長には「毎年、予想もしない交付金額を受け取ることが出来、大変感謝している」と言っています。

今後も「まちなかで人と緑が出会いふれあう芸術の杜」として生まれ変わる芹ヶ谷公園の着実な整備と駅中心からのアクセス確保を支援いたします。

広域交通 ネットワークの構築

活気に満ち溢れた魅力的な町田市の未来のため、更なる交通アクセスの改善に取り組んでいます。国土交通省に毎年要望した結果、多摩都市モノレールの延伸計画は、2016年の国土交通省の交通政策審議会で町田方面延伸の優先路線指定を受け、事業化に向けて大きく前進させることができました。多摩都市モノレールは原町田大通りを通して終着駅の町田駅に到着します。多摩都市モノレールが中心市街地の更なる起爆剤となるよう、小倉まさのぶは、日本モノレール協会の顧問およびモノレールの普及を応援する議員連盟の事務局長として今後も汗をかいてまいります。



芹ヶ谷公園芸術の杜プロジェクトパークミュージアム。



町田市の予算要望をヒアリング。



国土交通省、文部科学省、環境省、総務省への令和3年度の予算要望を実施。

町田第一中学校改修事業



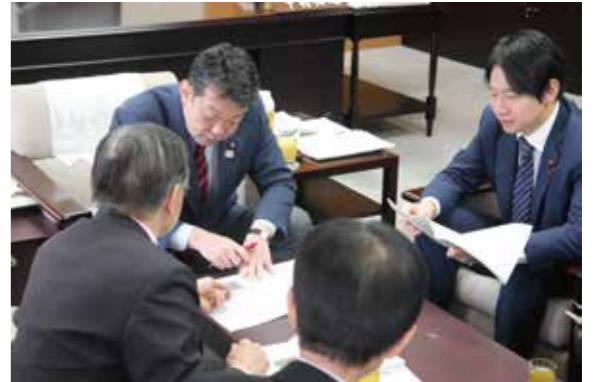
町田市では、高度経済成長期の出生率の高い時代に、小・中・高等学校が数多く建てられました。ところが、当時建てられた校舎では老朽化が進み、一斉に大規模修繕の必要に迫られており、その工事にかかる費用

は莫大で、市の財政だけでは対応できません。中でも、町田第一中学校は、市内で最も歴史の古い学校の一つであり、建替えには総額30億円を超える工事費がかかる見込みです。

小倉まさのぶは、毎年、文部科学省に、学校施設環境改善交付金の要望を行っています。政府に全国各地から莫大な予算要望が届いている中で、町田市の実情も理解してもらい、町田第一中学校建替えはじめ、市内小・中学校の耐震化やエアコン整備、トイレ改修などの学校関連予算の要望額のほぼ全額を町田市に配分してもらっています。町田市にはまだまだ改修が必要な学校がありますが、未来を担う子どもたちにこれからも安心して教育を受けていただけるよう引き続き全力を尽くします。



町田第一中学校改築起工式典。



中村裕之文部科学大臣政務官(当時)に要望活動。



新しい町田市の観光名所 「薬師池公園色彩の杜 ウェルカムゲート」

小倉まさのぶが毎年、国土交通省に予算を要望している公園整備事業が、昨年4月、またひとつ形になりました。町田薬師池公園四季彩の杜の玄関口、西園ウェルカムゲートです。今後は1年を通じ、四季折々の自然を体験できる観光名所として多くの来訪者が見込まれています。

市民の皆さまの声を実現！

小倉まさのぶは、厚木基地を離着陸する米軍機等の騒音対策の充実を防衛省に働きかけてまいりました。中でも、藤の台団地の皆さまから届く防音工事の要望の声は大きく、厚木基地周辺住宅防音工事協力会の全面協力のもと、防衛省に陳情を続けてきました。住民の方の粘り強い声や協力会の力強いサポートもあり、長年の課題であった外郭防音工事が令和3年度事業から認められることとなりました。

町田市は、6市と隣接しており、神奈川県との県境だけでも4市と隣接しています。森野やよい自治会より「国道16号(相模原市側)を町田市へ下ってくる際、スピードが出ているのに、先の進路が見えにくいので危ない」との要望をいただきました。県境をまたぐ要望でしたので、町田市・相模原市の関係者や相模原市選出の赤間二郎代議士と連携し、カーブミラーの設置を実現しました。こうした県境をまたぐ仕事も、国会議員の順番ではないかと考えています。



藤の台団地管理組合より防音工事の要望書を頂く。



森野やよい自治会の要望であったカーブミラーの設置を実現しました。